

長期自然体験事業

チャレンジ&チェンジ！真夏のアドベンチャー2018 ～海拔0m～3,000mへの挑戦～

1 ねらい

- ・富山県の雄大な自然にふれながら、海拔0m～3,000mまでを自力で踏破することにより、達成感を味わわせるとともにチャレンジ精神を育む。
- ・グループ活動を通して、主体性、自立性、協調性を養うとともに、豊かで自立した人格形成の基礎を培う。

2 期日

キャンプ : 平成30年8月10日(金)～18日(土) 8泊9日
 (ボランティア研修 : 平成30年7月14日(土)～16日(祝月) 2泊3日)
 (事前説明会 : 平成30年7月17日(月・祝) 日帰り)

3 対象

小学5年生～中学3年生

4 参加人数／募集人数／応募者数

18名／18名／41名

5 講師・スタッフ

国立立山青少年自然の家職員 7名
 法人ボランティア 6名
 国立登山研修所職員 1名
 立山ガイド協会登山ガイド 1名

6 ボランティア研修

国立立山青少年自然の家職員 7名
 法人ボランティア 6名
 立山ガイド協会登山ガイド 1名



	午前	午後	夜
7月15日(土) 1日目	○徒歩行程下見	○徒歩行程下見 ○立山博物館見学	○登山準備
7月16日(日) 2日目	○立山登山	○立山登山 ○ふりかえり	○ボランティア企画活動準備
7月17日(月・祝) 3日目	○事前説明会準備 ○事前説明会	○事前説明会 ○解散	

7 共催・協賛・後援・協力

共催：独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立登山研修所

協賛：富山トヨタ自動車株式会社、大塚ウェルネスベンディング株式会社、池田模範堂、横山冷蔵、アサヒ飲料株式会社、日の出屋製菓産業立山本店、北陸コカ・コーラボトリング株式会社北陸地区本部富山支店、コーシン㈱

後援：富山・石川・新潟各県教育委員会、立山町教育委員会、北日本新聞社、Net3

協力：富山県立山博物館、立山カルデラ砂防博物館、学校法人上智学院、立山室堂山荘、浜黒崎キャンプ場、グリーンパーク吉峰、牧コミュニティーセンター、芦峯ふれあい交流館

8 日程

	午前	午後	夜
8月10日(金) 1日目		受付 14:00～ 出合いの集い 班タイム	仲間作り活動 ※自然の家(本館)泊
8月11日(土) 2日目	仲間作り活動	パッキング・浜黒崎キャンプ場へ移動・野外炊事	班タイム ※浜黒崎キャンプ場泊
8月12日(日) 3日目	地引網体験・海鮮鍋	歩行行程① 浜黒崎～グリーンパーク吉峰	班タイム ※グリーンパーク吉峰泊
8月13日(月) 4日目	歩行行程② グリーンパーク吉峰～立山博物館～国立登山研修所		班タイム ※登山研修所泊
8月14日(火) 5日目	パッキング	カルデラ砂防博物館見学 スポーツクライミング体験(登山準備)	班タイム ※登山研修所泊

8月15日(水) 6日目	登山行程① 千寿ヶ原～美女平～弘法～弥陀ヶ原	星空観察、班タイム ※六甲学院立山ヒュッテ泊
8月16日(木) 7日目	登山行程② 弥陀ヶ原～天狗平～室堂ターミナル～室堂山荘	班タイム ※室堂山荘泊
8月17日(金) 8日目	登山行程③ 室堂山荘～一ノ越～室堂山荘～室堂ターミナル	ファイナルパーティ ※自然の家(本館)泊
8月18日(土) 9日目	活動のまとめ・発表会	別れの集い 解散 14:00

9 参加者からの感想

●あきらめずにチャレンジ

自分の心を強くしたいと思い、チャレンジ&チェンジに参加しました。ぼくは、あきらめない強い自分に出会えたと思います。まずは、歩行行程で最後までがんばりぬいて、グリーンパーク吉峰までたどり着いた時、本当にうれしかったです。あきらめずにやって達成できた時は、こんなにもうれしいものなのだということが分かりました。今後の生活の中でも、すぐに投げ出さずにやり遂げる時の自分の力になると思いました。また、歩行行程でのがんばりは、登山行程の時にすぐに自分の行動に表れました。自分もみんなもつらい時、弱音を吐かずに声をかけあって協力して登ることができました。がんばろうという気持ちが自分にも仲間にもあったのだと思います。励まし合いながら、3015mを登頂することができました。その時の感激は、歩行行程の時よりも大きなものでした。つらい時にがんばろうと思うことがチャレンジする気持ちにつながるということが分かりました。これからも、何事にもあきらめずにチャレンジする気持ちを大切にしたいと思います。



●自分を見つめなおす機会に

私は、このキャンプで富山の自然にたくさん触れ、感受性を高めることができたと思います。日常から切り離された9日間。テレビやゲームなどが無い生活は、自然に仲間との触れ合いに気が向きました。自然の中で仲間と過ごした時間はとても充実したものになりました。そして、海拔0m～3000mまでを自分の足で歩き通しました。その中で、町や田園、自然の風景を目の当たりにしたり、雨や風などを肌で感じたり、様々な体験をすることができました。歩いて進むことで、いつもは気付かない自然の厳しさや素晴らしさにも触れることができました。また、仲間との会話の時間がたくさんあり、仲間の新しい一面の発見などもありました。自然に触れたいと思って参加した長期キャンプでしたが、存分に自然を体験し、富山の最高峰の大汝山に登頂できたことは、大切な経験と自信につながり、自分自身を見つめ直すことができたキャンプになりました。これから日常に戻りますが、自然から学んだ多くの事を忘れず生活に生かしていきたいと思います。一緒に活動した仲間、ボランティア、職員の方々に感謝したいです。

10 成果

- 今回、全てを徒歩で進める行程を取り入れた。天候にも恵まれ、これから登頂する立山山頂を臨むことができたことや、登山行程途中で平野部を見下ろし、出発地点を確認することで、自分自身の足で歩を進めてきた実感を増幅できたことは有意義であった。
- キャンプ中の日々のチャレンジ(挑戦)とチェンジ(変容)を毎日記入する「チャレ・チェンカード」は昨年の実施と同様に有効的であった。個々の目標について、班員全員で共有し、互いに意識したり、指摘し合ったりすることで、目当てに効果的に近づくことができた。
- 仲間づくり活動で時間、徒歩行程での参加者間の交流の時間が確保されたことで、相互の理解を深めることができ、個人の内面を高めるための一助となった。

11 今後の課題

- プログラム内容については再検討する必要がある。参加者の発達段階の差を十分に考慮して、ルート・移動手段・時間設定の変更や活動内容の精選を行うとともに、効率的かつスムーズな行程の進行のために他施設の利用も考えていく。また、本年は猛暑に見舞われたが、様々な気候の変化に対応できるよう多岐にわたる対応策を練っておく必要がある。
- スタッフの役割を明確化し自立して動けるよう、事前打ち合わせの強化が求められる。